

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成28年1月31日現在

今月の重点活動

■普及活動 **平成27年度岐阜地域普及活動等成果検討会を開催**

1月26日、岐阜農林事務所及び岐阜地域農業改良普及事業推進協議会主催による普及活動等成果検討会を開催し、農業者及び関係者が約120名参加した。

農業普及課からは、えだまめ産地の構造改革に向けた取り組み支援と水稲と野菜等の複合経営に取り組む営農組合の活動支援との2つの事例発表を、JAぎふからは、管内の複合経営に取り組む担い手の支援について事例報告を行った。

また、富山県の(有)ドリームファーム代表取締役から、「雇用型水田複合経営について～夢をかたちに～」と題して、水田農業の複合経営の優良事例について講演があった。水田の栽培だけでなく、直売所やチューリップ生産などによる経営の多角化、地域の雇用の創出、さらには中国やシンガポールなどへの輸出状況まで、多岐に亘る取り組みについて説明があり、農家の方々から多くの質問が出されるなど、関心の高さが窺われた。

農業普及課として、今後も地域農業の振興を推進していく。

(地域支援第一係・斉藤政隆)



【発表する農業普及課職員】

売れる農畜産物づくり

■いちご **新品種「華かがり」の現地研修会を開催**

いちご新品種「華かがり」は、県農業技術センター育成品種で、果実が大きく形がきれい、果汁が多いなどの特徴があり、岐阜市と本巣市の実証試験ほ場において、農業普及課が定期的に生育調査などを行っている。

1月15日、岐阜市の実証試験ほ場で、合渡地区の生産者を対象とした現地研修会を開催し、品種特性やこれまでの生育調査結果などを説明した。生産者からは栽培管理などについて質問が多くあり、関心の高さが窺われた。また、試食も行い、食味については、酸味が少なく、果汁が多いため、甘みを強く感じるなど良い評価が得られた。

農業普及課では、今後も引き続き生育調査などを行うとともに、生産者に向けて情報提供をしていく予定である。(園芸産地支援第一係・遠藤るみ子)



【現地研修会の様子】

■祝だいこん **反省会を開催**

今年の祝だいこんは、は種時期が早くなったこと、暖冬で生育後半に雨が多かったことなどから、だいこんが大きく、太くなり、また、病害虫の発生も多くなった。過去最大の栽培面積であったものの、出荷実績は22.1万束(前年比90%)に留まり、非常に厳しい結果となった。また、選果・選別が徹底されず、出荷規格に適合しないだいこんが出荷されるなど、品質面での課題も残すこととなった。

1月15日の反省会では、こうした状況を受け、ピリピリとした雰囲気があったが、個人選別の徹底、出荷時検査体制の見直し、は種時期、研修会の開催時期など活発な意見があり、今秋作にかける生産者の意気込みが感じられた。

農業普及課からは、今年的气象経過や病害虫防除など栽培管理上の問題点と対策、選果、選別の徹底などの指導を行った。(園芸産地支援第一係・近藤 勝)



【反省会の様子】

■えだまめ **平成28年産「岐阜えだまめ」のは種始まる**

1月25日、岐阜市菅生のビニールハウスで、岐阜えだまめのは種が始まった。ハウス組合員8名が育苗に必要な電熱線などを設置をした後、大型連棟ハウスで栽培を行う3名が「福だるま」の種子27,000粒(20a分)を育苗箱31箱には種した。

今後10日ほど育苗した後、本ぼへの定植が行われ、4月下旬頃には収穫できる見込みである。ハウス組合では、1週間おきには種し、3月上旬頃まで共同で育苗管理することとしている。



【は種の様子】

